

S.O.S

活動 報告集

Students' Organization for Self-help and Official Support



〔就活会セミナー〕

S.O.S認定
活動団体は
こんなことを
やりゆうよ!!

あなたも、一緒に
やってみませんか?



防災すけっと隊
〔東北地方太平洋沖地震義援金募金活動〕

c o n t e n t s

それいけ！ 高知大学S.O.S認定活動	2
高知大学の学生活動の情報を一元化！ 学生活動支援【さぼると】	3
フェアトレードを通じて国際交流！ 高知大学国際協力団体【すきっぷ】	4
就活不安を吹き飛ばせ！就活生へ心強い助っ人達。 就活生応援団【就活会】	5
メンタルヘルスを中心とした学生相談で、仲間をサポート！ ピアサポート 学生相談【MHCC Mental Health Care Club】	6
学内情報を発信！ ちょっとオイシイ高知大ライフJam【チーム☆ぼうしぱん】	7
来る自然災害に立ち向かう！ プロジェクト DISASTER【高知大学防災すけっと隊】	8
あなたの食事、大丈夫ですか！ 見直してみよう食生活プロジェクト【元気生活☆】	9
高齢者と遊びを通じてQOL向上！ 高知長寿いきいきプロジェクト【百遊会】	10
Safe Kochi For Children「安全な高知を、子ども達のために」 高知子ども守り隊【守るんジャー】	11
総合教育センター修学支援部門から「ピア・サポーター養成講座」のお知らせ	12

それいけ！ 高知大学S.O.S認定活動

高知大学総合教育センター 修学・留学生支援部門
S.O.S支援部会長 玉里恵美子

高知大学s.o.s認定活動をご存知ですか。s.o.sとは、Students' Organization for Self-help and Official Supportのことで、本学の学生相互支援（ピア・サポート）活動組織を指しています。また、そのような活動を大学として公的に支援していこうとするものです。

平成12年より学生相互の活動を支援する組織が大学内に設立され、後にs.o.s支援部会という教員組織ができ、s.o.s活動の充実が図られてきました。紆余曲折を経て、平成21年度からs.o.s支援部会を修学・留学生支援部門に設置することになりました。s.o.s支援部会の活動は、①学生による多種多様なピアサポート活動の発掘（募集）と拡大、②相互支援活動組織である各プロジェクトチームの支援の充実、③新しいs.o.s活動及びs.o.s支援活動システムの定着と検証、を具体的な活動目的としています。

ところで、平成18年度からは、学生の申請に基づき、s.o.s支援部会の審査を経て、幅広くその活動を認定し支援を行うことになっています。①すべての学生に対して門戸を開き、②その活動に公共性があり、③学生が相互に支援する活動であるならば、本学の公的組織s.o.sとして認定され、財政的な支援も受けられます。

また、学生の新たな企画の掘り起こしのため、募集段階で学生にわかりやすいメッセージを伝えるべく、①学生のためのピアサポートを目的とした活動、②地域活動・地域貢献を目的とした活動、の二つの応募区分を設定しています。

各々の活動には、プロジェクト支援教員がいて、学生活動の指導・サポートにあたります。学生の自主的な活動を尊重しながら、s.o.s支援部会、プロジェクト支援教員、事務局がそれぞれの立場からアドバイスを行い、本学学生の自律的な能力の形成に寄与することをミッションとしています。

本報告書は平成22年度に採択された9団体の活動報告書です。学生のみなさん、s.o.s認定団体に入って活動してみませんか？ また、自分たちで活動団体を作ってみませんか？毎年、春に公募があります。掲示板やフォーラムを良く見ておいてください。s.o.s活動に関する相談は一年中受け付けています。

平成22年度		S.O.S支援部会	
玉里恵美子	部会長	総合教育センター	准教授
辻田 宏	委員	人文学部	教授
池田 啓実	委員	人文学部	教授
小島 郷子	委員	教育学部	教授



[リーダー会議]



[リーダー会議]

高知大学の学生活動の情報を一元化！

学生活動支援【さぼると】

【「さぼると」について】

「さぼると」とは、学生による学生の課外活動を支援する団体です。名前の由来は、支援するという意味の“サポート”と、ラテン語で港を表す“ポルトゥス”を合わせたものです。この団体名には「さぼると」が情報の港となり、その港に人が集まり利用することで、学生活動への入り口となるといった想いが込められています。

この団体の発足理由には、高知大学内の学生団体は各々に活動をしており、団体同士の交流や連携、情報交換などが成されていないという現状があるというのがあり、その原因の一つに学内の団体数や理念をしっかりと把握している場所がないという問題に行きつきました。また、個人や団体からイベントやセミナー情報を送るのがこれまでの手段ですが、そ



【さぼると説明会】

れでは非効率であり、広がりにも限界があると感じました。そこで「さぼると」では情報の一元化が必要と考え、そのための活動を行っています。

【団体のメンバー構成】

発足メンバーである4年生が中心ではありますが、今年度は1年生のメンバーが3人も増え、合計8名で活動をしていきました。高知大学の学生団体には珍しく、理学部の学生がメンバー比率が高かったので、情報発信のシステム作りなどの面では特に大きな役割を担ってくれています。

【本年度の活動内容】

活動内容の一つとして昨年度に引き続き、イベントやセミナー、スタッフ募集といった情報を発信するメーリングリスト（以下ML）の運営を行いました。

現在の登録者数は100名です。ほとんどは高知大学生ですが、中には卒業生や教員、また趣旨に賛同してくださった上で他大学や他県の方々が登録してくださっています。発信するイベント情報源は、メンバー個人の持ち寄りや新聞、広告、友人らからの情報であり、180件近くを流してきました（ML登録者、送信情報ともに2011年3月8日時点）。

また同じく引き続き、さぼると説明会を開催し、「さぼると」を知ってもらうとともに、大学生活を考える機会を前期と後期の合計2回実施しました。企画・広報が不十分だったため、参加者数こそ少なかったのですが、こういった機会を設けることができたのは「さぼると」としても大きな意味があったと考えます。

他にも、S.O.S報告会における企画準備や司会といった中心を担うことで、S.O.Sにおける学生主導型の土台を作ることに貢献できたと考えています。またHPもほぼ完成しており、同時に団体把握の土台ができたのも来年度に向けて大きな一歩になると考えています。

【これからの活動について】

まず来年度も引き続きMLの運営やさぼると説明会を行いたいと考えています。さらに、HPが完成に近づいたことで、これまで力を入れ切れていなかった「さぼると」の認知度を上げ、より多くの方々に利用してもらうことにも力を入れていきたいと考えています。

また実施が遅れている、団体把握も順次スタートさせ、把握後は発信していきたいと考えています。これらを通して、より情報の港としての役割をしっかりと構築していきたいと考えています。

【最後に】

今年度は「さぼると」またS.O.Sの存在意義や今後を考え、議論し合った一年であったと感じます。ここから「さぼると」やS.O.Sの存在の重要性を改めて感じる事ができ、誇りに思うことができました。また同時に多くの方々から「さぼると（S.O.S）があることが羨ましい！凄い！」といった声をいただき、日々の活動のやる気に繋がっています。組織としての課題を多く抱えており、またこれから活動の内容的に忙しくなることが多いですが、港となれるように着実に一歩ずつ活動していきたいと考えています。

フェアトレードを通じて国際交流！

高知大学国際協力団体【すきっぷ】

【活動目的】

すきっぷ(以下、当団体)は持続可能な現実的活動を行うことによって、国際問題に関する知識を得ていくとともに、世界の貧困問題解決の一端を担うことを目的としている。その手段として、フェアトレードを活動の軸に置いている。フェアトレードとは、開発途上国の商品を労働や環境に見合った適正な価格で購入することを通じ、対等な立場で取引することで、立場の弱い途上国の労働者の生活改善を目的とする運動である。

【活動概要】

現在、当団体には19名が所属している。顧問として人文学部の中西三紀准教授のご協力を得て活動している。

【今年度の活動】



〔明德義塾高校文化祭での販売〕

今年度の主な活動内容は地域でのフェアトレード商品の販売や講演会の主催、高校へ出張授業である。また、団体メンバーの意識向上や内部構造構築のため勉強会や月に一度、全体会議を行った。すきっぷが軸としているフェアトレード商品の販売は現在、マラウイのエイズ孤児たちが作ったビーズバッグのみ取り扱っている。昨年まで取り扱っていたフィリピンのスモーキーマウンテン(首都マニラのゴミ投棄場で暮らす人々が作ったエコバッグ)の販売は現在取り扱いを中止している。今年度現地視察を行い仲介団体であった「LOOB」を訪問し、透明性の確保のためLOOBから会計報告書を受け取ったが、



〔エイズ講演会〕

LOOBが商品を買っているUCLAの会計報告書が非公開とされ、生産者に対して公正な賃金が支払われているかわからない。そのため、当団体がフェアトレードの重要な条件である透明性の確保ができず、消費者に対して証明責任が果たせない、また、報告書の開示が今後できないと言われたため、現在、LOOBから仕入れた商品の取り扱いを中止している。

【これからの活動】

来年度は、今年度の問題点である「商品流通経路の不透明」を踏まえ、より信頼がおけ、商品生産過程・流通経路で透明性のある団体と協力し、フェアトレードを行う。そのためにも、フェアトレードの知識を学ぶと同時にイベントで消費者の意見を聞いていく。また、高知大学生にフェアトレードを知ってもらい、世界に関心を持ってもらうために大学生協に働きかけることですきっぷの商品やフェアトレード商品を常時販売できる場所を確保していきたい。

また、前年度からの問題である。高知大学生向けの企画を今年度もできなかったため、来年度は高知大学生が国際協力にアプローチできるよう、学内でフェアトレードコーヒーの試飲会を行ったり、国際協力関係の講演会を行っていきたい。

これからも当団体は、フェアトレードを行いながらも、様々な国際協力を取り入れ、地域、大学、途上国にアプローチすることで貧困解決を目指し活動を進める。

就活不安を吹き飛ばせ！就活生へ心強い助っ人達。

就活生応援団【就活会】

【目的】

就職活動生に生じてくる不安や疑問を解消し、よりよい就職へと繋げるサポートをする。また、就活会の活動を通して、様々な人に出会い、話し、考えて、行動する、そうして自分たちの成長の糧とする。

【活動内容】

6月—インターンシップパネルディスカッション

7月—自主勉強会(就活会メンバー内)

就活セミナー

内定者パネルディスカッション

10月—内定者の体験綴った冊子

自己分析セミナー

11月—他者分析セミナー

実践グループワーク

12月—(プロ講師を招き)ESや履歴書セミナー

実践集団面接

1月—面接、グループワーク、相談での支援

各イベントの後に、座談会の時間を作り、就活生それぞれが抱える不安や悩みの相談にのれる機会を作りました。その他、メールでの相談や、個別での相談を受けたり、ブログで体験談等を綴る活動をしました。

【活動を通して】

私達は、就活会の活動を通して「時間の使い方」を学べたのではないかと思います。

大学生活の最後の1年間をどう使うか。卒業論文に時間が必要で、もちろん遊ぶ時間も必要で、そのためにはアルバイトの時間も欲しい。そんな生活の

中に、就活会のメンバーは、就活生支援の時間も作りました。その根本は、自らの就職活動で大いに考え、悩み、行動し、結果を残したからだと思います。そして、これからの就職活動生の力に少しでもなれたら、微力でも後輩の応援ができれば、そう思って活動をしてきました。自分一人の行動の時間管理は容易です。しかし、対相手のイベントを行うことや、組織で活動するためには、それぞれの予定を加味しながら日程を調整しなければならず、それは容易なことではありません。さらに、イベントに参加してくれる方々は真剣に就活に向き合っている学生なので、半端なものを提示することはできません。目の



【セミナーの様子】

前にあるものだけでなく、活動に関わる全てのことに気を配り、時間を作り、仕事を作り、企画を作り上げていく。これから私達が社会人として働く上でとても重要なことが学べました。

【後輩へのエール】

来年度、就活会は活動していますか？「就活生を支援したい！」という学生が、たまたま毎年いて、たまたま毎年発足させ、成果を残してきました。今年度まではあって当たり前だった団体かもしれませんが、来年度からはわかりません。

どうぞ、この芽を摘まず、後輩に残してあげてください。

活動を通して得るものは、幾らでもあります。就職活動を終えて気付くことも多くあります。これは、やってみた人にしかわかりません。就職活動でもそうだったでしょう？行動しないと何もわかりません。

ひとりでも多くの支援者が増えることを願っています。



【セミナーの様子】

メンタルヘルスを中心とした学生相談で、仲間をサポート！

ピアサポート 学生相談【MHCC Mental Health Care Club】

【活動の目的】

メンタルヘルスについて学び、様々な形で実践を行うサークルです。精神科・保健管理センターのご協力の下に、カウンセリングや精神医学などの幅広い分野の知識を得て、仲間のサポートができるように、長期的には患者さんとのコミュニケーションの取れる良い医療者となることを目的としています。

【活動内容】

毎週水曜日、午後6時～8時に医学部でメンタルヘルスについて学んでいます。臨床心理士の先生によるカウンセリング講義、演習をしていただいたり、学生同士でカウンセリングの練習をしたり、各種心理療法のDVDを供覧したりしています。他にも、心理テスト、医療面接、緩和ケアなど各々の学生が興味のある分野について学びの場を広めています。

ピアサポート活動については毎週水曜日、午後4時半～5時半に医学部にある保健管理センターの一室をお借りして相談窓口を開いています。ピアサポーターを養成するためのピアサポート合宿を毎年開いています。この合宿にてピアサポートについて集中的に学び、普段のカウンセリングの勉強と合わせた成果がピアサポート活動に活かされています。また、メインの活動ではなくなりましたが室戸で行われているドルフィンセラピーについても活動を継続しており、それに関連して自閉症についての勉強も行っています。

【本年度の活動を振り返って】

今年は新入生が6人入部してくれ、カウンセリングを学ぶ意欲も高いので他の学年にも刺激になりました。先生のカウンセリング講義、演習も初歩から丁寧にしていただき上級生ももう一度基本に立ち返ることができ、また学生だけの演習も再開することができました。ピアサポート活動については特定の方の定期的な相談に限られている点は残念ですが医学部では部活に入

ればそちらのサポートが大きいことと、狭い人間関係で相談すること自体にハードルが高いようで軽い相談を受けることができる環境を作り出すことは難しいと改めて感じました。ただ、定期的に繋がっている方のお役には立てているのではないかと考えています。今年度は台風により、ドルフィンセラピーとピアサポート合宿が中止になってしまい残念でしたが臨床心理士の先生に無理を言ってピアサポート合宿は年度末に開催できるようになりました。

【これからの活動について】

学ぶ場はある程度完成していると思いますが実践についてはまだまだ改善の余地が大きいと思います。ピアサポート活動を幅広い相談に使っていただくには相談しやすい環境作りについて、今一度検討することが必要だと思います。高知工科大学では学生食堂の一角を借りて4月、5月等の一定期間新入生向けのピアサポート活動を行っているそうです。高知工科大学の活動を見学することで自分たちの活動の幅が広がればと思っています。学びについては自分が個人的に見学させていただいているアルコール依存症者の自助グループであるAA（アルコホリックスアノニマス）の方や個人的に知り合いになった高機能自閉症の方に講演をお願いすることでより幅広い知識が得られればと思っています。



【ドルフィンプロジェクト】

学内情報を発信！

ちょっとオイシイ高知大ライフJam【チーム☆ぼうしぱん】

チーム☆ぼうしぱんは、「高知大に来てよかった！」と思う学生を増やすことを目的として、高知大学生に向けたフリーペーパー『Jam』を発行しています。冊子を通して、高知や高知大学を見直すきっかけ、何らかの行動を起こすための情報、学生生活を充実させるのに役立つ情報を提供するために活動しています。

この団体は現在、ライター5名、デザイナー5名、カメラマン1名の合計11名のメンバーで構成されています。週に2回、月曜日と金曜日に会議を行います。

当団体が発行している冊子には、春と秋に発行している『Jam』と、夏と冬に発行している『mini Jam』があります。『Jam』はB5サイズで28ページの冊子で、『mini Jam』はA3サイズの1枚の紙を折りたたんだ小冊子です。どちらもオールカラーで、『Jam』は3000部、『mini Jam』は1500部を毎回発行しています。これらを年4回発行することが主な活動となります。

発行した冊子は、主に朝倉キャンパスでメンバーの手から直接学生へ配っています。他にも大学構内

に数箇所（メディアの森や購買、人文学部棟など）設置することで、学生に届けています。

2006年度に発足してからこれまでの活動で、高知大学生の9割に『Jam』を認知してもらうまでになりました。（当団体実施のアンケートによる）これからは、この認知度を生かした上で何が伝えられるか、何を伝えるべきかを自覚しなおして活動すべきだと考えています。

この活動の中で、自ら考え行動することの大切さを実感すると共に、その難しさを実感しました。そして個人としてだけでなく、組織全体としての課題を意識する重要性を学びました。

2010年度の活動内容

- 4月：Jam春号発行
- 7月：mini Jam夏号発行
- 10月：Jam秋号発行
- 1月：mini Jam冬号発行



[Jam2010春号]



[Jam2011冬号]



[Jamの紙面]

来る自然災害に立ち向かう！

プロジェクトDISASTER【高知大学防災すけっと隊】

高知大学防災すけっと隊は、南海地震や突風災害をはじめとする、災害と隣り合わせの高知県で、次世代を担う小中学生、高校生に対し防災教育を行ったり、若い人の力が不足している地域での防災活動を行っています。

また、自分たちの身を自分たちで守るため、学生への啓発活動も行っています。そのためメンバーは学部、学年を問わず幅広い考え、意見を持って、災害に立ち向かいます。2008年11月に7～8名で発足した防災すけっと隊は、現在（2011年3月）学部生から院生まで29名おり、主に毎週水曜日のミーティングで依頼が来た防災授業、地域での活動内容を詰めたり、大学生に防災力をつけてもらうにはどうしたらよいか、メンバー自身の防災力を身につけるための勉強会などを行っています。

2010年度は東部の高校生を対象にした防災授業、新堀小学校、鏡野中学校、新荘小学校、佐川高校での防災授業、夏休みの児童クラブでの防災活動、仁

淀川町大西地区での地域交流、黒潮祭での炊き出し豚汁販売、奄美豪雨の募金活動などの活動に加え、ラジオ番組や様々なイベントでのPR活動を行いました。

今後は学生自体の授業と防災授業の両立を目指しながら、これまで通り防災授業を受け付けるとともに、自主防災組織や県内の地域での防災活動に協力する依頼を受け付けています。それに加え、南海地震発生後の大学の業務継続や、学生の安全を図った学内の防災マップを作製する予定です。

しかしながらメンバー自身の学業や多忙による日程調整が難しかったり、明確な最終地点が見えない中での活動であったり、教員、組織の中での防災意識への温度差に立ち向かうといった課題が、今まで活動してきた中で見えてきました。

そのためにも私たちの状況を含めた活動内容をアピールするとともに、メンバーの役割をしっかりと設定していくことを大事にしていきたいと思います。



【大西地区での交流】



【にげろん龍馬バージョン】



【児童クラブでのぼうさいダック】

あなたの食事、大丈夫ですか！

見直してみよう食生活プロジェクト【元気生活☆】

[活動の目的]

私たち元気生活☆の目的は、栄養の偏りやすい一人暮らしの方や学生に自炊という形で少しでも栄養バランスの良い食事をとってもらいたいというものです。そのために少しでも料理に興味を持ってもらえるような活動（簡単で美味しく出来るレシピの考案や料理教室の開催、食についてのコラムを書くことなど）を通して自炊をすることを促していくという活動を行っています。

[活動内容とこれからの課題]

本年度の活動内容としては、ホームページ上に今までに開いた2回の料理教室の様子を更新や自分たちが日々作った料理をブログに載せるなどWeb上の活動が多かったです。来年度は、今以上にWeb上の

コンテンツを充実させて、農家の方へヒアリングを行ったり、第三回目の料理教室の開催も考えています。現在私たちの団体はメンバーが4人（農学部3人、人文学部1人）と少ないので、出来ることが少ないという問題があります。だからこそ新しいメンバーの勧誘にも来年度は力を入れていきたいです。

[最後に]

私たちの活動が、少しでも高知大生の料理をすることが難しいと思っている学生に料理ってこんなに簡単だったんだと感じ、自分でも作ってみようという行動につながってもらえるようこれからも頑張っていきたいと思います。

“Fuzz@わたげ” <http://fuzz.tobiio.jp>



[料理教室の様子]



[四万十とおわの花かご御膳]

H22.6.30(WED)

recipe ●●●

しょうが焼き

- ① 3種類の調味料を
あわせておく。
- ② フライパンを熱して
片栗粉をまぶして焼く。
- ③ 両面に火が通ったら
①を入れて沸騰したら
とろみをつける。

和風チンジャオロース

- ① 調味料を合わせる。
- ② ビーマン、大根を細切りに刻む。
- ③ フライパンで牛バラを炒めて
野菜を炒める。
- ④ 合わせ調味料を入れて
片栗粉でとろみをつける。

漬物

- ① 調味料を鍋に入れてお酒を飛ばす。
- ② 冷めてから袋かビンに入れて
野菜を入れ一晩漬けたら出来上がり。

POINT
出し昆布とからしを入れるとさらに美味しくなります。

材料 ●●●

しょうが焼き
豚ロース
しょうが
キャベツ
トマト
きゅうり

和風チンジャオロース
牛バラ肉
ビーマン
大根
赤ビーマン
味噌
片栗粉

三品ともすべて同じ調味料を使用しています☆

調味料
濃口醤油
みりん
酒

第二回料理教室
主催：元気生活☆ 山中浩三さん
講師 浪渡亭料理長 山中浩三さん
浪渡亭とは？

東京にも出店している
割烹風居酒屋。
粋な板長が地元の食材を
中心に作る創作料理や
四季を感じる山海の幸が
リーズナブルな価格で
楽しめます。

※只今バイト募集中だそうです^^

[レシピ]

9

高知大学総合教育センター 修学・留学生支援部門 平成 22年度S.O.S認定団体活動報告集

高齢者と遊びを通じてQOL向上！

高知長寿いきいきプロジェクト【百遊会】

【百遊会とは】

高知県香美市（旧香北町）にて、旧高知医科大学老年病科が健康支援事業として行っていた文化教室の廃止後、その参加者の中から希望者が集まって新規に結成されたグループです。香北町が合併するというので、市が運営できなくなり、5年前に高知大学医学部の学生が運営しています。前団体を合わせると、18年もの歴史があります。現在、高齢者は14人、学生13人、教員1人、香美市の看護師さん2人（学生が運営する前に運営されていた方）で組織しています。

活動内容は、参加者同士が相談して決めており、学生はグループ内の交流や活動を円滑にするために支援的に関わるのみであくまで意思決定は高齢者にゆだねられています。（非高齢者である教員が活動内容決定の主導権を握るデイサービスとは異なる意思決定形態です。）

【百遊会の目標】

- ①高齢者のQOLの向上
- ②いきいきと生きるには
- ③対人援助技術の向上

①高齢者のQOLの向上

太田壽城さんによると、高齢者のQOLは生活活動



【高齢者と活動】

力、健康満足感、人的サポート感（家族、友人、周りとの付き合い）経済的ゆとり満足感、精神的健康（不安や寂しさなど）精神的活力（趣味や生きがい）より構成されると考えられます。そして、百遊会において、自分たちでやりたい活動を決めたり、月一回必ず家の外に行きいرونなところを歩いたり、新しい参加者や学生と交流したり、みなさん百遊会を楽しみにしているということは、QOLの向上に貢献しているのではないかと考えられます。

②いきいきと生きるには

人は20歳を過ぎると老化が始まり、あらゆる面で障害が出てきます。しかし、百遊会には90歳を過ぎても元気に歩いている方がいます。その方たちと交流することにより、老化により出てくる障害といかに対処し、生き生きといきるカギを探しています。

③対人援助の技術

車いすの使い方や、コミュニケーション能力など、高齢者の活動をサポートするうえで、自然と身につけていきます。

【活動内容】

毎月1回行なっています。

H22年3月	桂浜	10月	風邪予防教室
4月	高知駅	11月	紅葉狩り
5月	ペタンク	12月	クリスマス会
6月	映画鑑賞	H23年2月	節分
9月	わんぱーく高知	3月	卒業生を送る会



Safe Kochi For Children 「安全な高知を、子ども達のために」

高知子ども守り隊【守るんジャー】

〔活動目的〕

『高知子ども守り隊守るんジャー』（以下、守るんジャー）は、下校中に小学生が狙われるといった事件が相次いだ2005年に結成された団体です。教員を目指していた当時の学生達が、「私たちに何か出来ることはないか」と考え出した事がきっかけです。そんな私たちのモットーはSafe Kochi For Children「安全な高知を、子ども達のために」。そのモットーの下、大学周辺に存在する高知市立朝倉・朝倉第二小学校の下校児童を対象として、交通安全指導を行っております。

〔活動概要〕

2011年3月1日時点で、守るんジャーの隊員は大学院2年生1人、4年生8人、3年生23人、2年生9人、1年生7人の計48人います。普段の活動は、平日は毎日行い、15時から1時間を前半、17時から1時間を後半とし、偶数月は朝倉小、奇数月は朝倉第二小で活動しております。児童と共に下校したり、

信号機が無い横断歩道で、横断をサポートしたりすることで、交通安全指導を行っております。また、通学路を見回りすることで児童にとって危険な場所を事前に把握し、事故・事件を防ぎます。活動後には反省会を行い、それをメーリングリストで一斉送信することで活動に参加していない日に起こったことを全員が把握するように努めています。反省会で挙げた問題のうち一つを、月に一回隊員全員が集まる場である「マモサミ」での議題に挙げ、問題点を共有し、解決しています。

普段の活動以外としては、児童と朝倉を美化しながら交流を深める「クリーン作戦」を主催、よさこい本祭で高知市子ども会連合会の子ども踊り子隊をサポート、朝倉まちづくりの会主催の針木夏祭りへの参加など地域と小学校との交流を主にしています。

このような活動が認められ、2010年度にはSYDボランティア文部科学大臣賞を受賞いたしました。



〔マモフェス開催（2010.11.14）〕



〔大臣表彰〕

総合教育センター修学支援部門から「ピア・サポーター養成講座」のお知らせ

修学支援部門では、高知大学内における学生相互支援（ピア・サポート）の人材育成と資質向上をめざして、全学生を対象とした「ピア・サポーター養成講座」を2010年10月から11月にかけて開講しました。留学生を含めて20名の応募があり、毎回、熱心なワークショップが行われました。

【2010年度 ピア・サポーター養成講座 日程表】

日時	テーマ
第1回	開講式 “ピア・サポーター” って、なんなが？
第2回	真弓さんと「生きる」ことについて熱く、楽しく語ろう。
第3回	「鳴子」と「正調よさこい」で国際交流
第4回	ワークショップ：高知大学でのピア・サポート 閉講式 認定証授与

講師には、元高知中央高校教諭の近藤倫代さん（第1,3,4回）、高知ハビリテーリングセンター・センター長の上田真弓さん（第2回）を迎えて、「ピア・サポートとは」、「支援とは」、「交流とは」と話題提供をしてもらい、参加者は熱心に高知大学におけるピア・サポートのあり方を検討しました。

最終日には、全回出席した5名の学生（日本人学生2名、中国人学生3名）が初代ピア・サポーターとして認定され、認定証が授与されました。2011年1月6日には、カリフォルニア大学フレズノ校の訪問学生歓迎イベントで「よさこい踊り」をレクチャーし、積極的に国際交流を行いました。今後の活躍に期待しています。



【心に響く話を聞く】



【よさこい踊りで交流を】

2011年度も「ピア・サポーター養成講座」を行います。学部や学年に関係なく、留学生でも誰でも参加できます。「ピア・サポーター養成講座」の募集は掲示板やフォーラムで行いますので、注目しておいてくださいね！



S.O.S認定活動についての問い合わせ 各団体への問合せはこちら...

高知大学学生支援課 〒780-8520 高知市曙町2丁目5番1号
電話:088-844-8432 E-mail : gs06@kochi-u.ac.jp